

経営デザインシート（宮本工業所工業炉統括本部）

事業概要

・アルミ溶解炉を中心とした、各種工業炉の設計、製作、設置工事。

経営方針との関係

熱技術と未来環境の追究
→ 当社の熱技術とスマートファーンズを活用して、現場のエネルギー効率と作業環境を改善する。

事業概要

・今後もアルミを中心とした、各種工業炉の設計、製作、設置工事。さらにその中でも得意分野であるスマートファーンズを活用した未来の工業炉を創造、提供する。

経営方針との関係

熱技術と未来環境の追究
→ 全ての工業炉を「スマート」にする。工業炉のスマート化によって、顧客の環境経営の推進、地域環境・地球環境の保全に貢献する。

資源

ビジネスモデル

価値

資源

ビジネスモデル

価値

主要な資源

内部資源
・オールラウンダーな横串の人材
・全国展開のネットワーク
・盤石な財務基盤

知財
熱技術（特許、ノウハウ）
スマートファーンズ（商標、ノウハウ資産）

外部調達資源（誰から）
・協力会社（ソフト、ハード両面）

収益の仕組み

資源をどのように用いて価値を生み出してきたか
・細かい顧客ニーズに対応してきた。
・横串人材が一貫して担当する。
・顧客ニーズに応える提案で価格競争に陥らない。

知財の果たしてきた役割
・差異化された提案ができる

提供してきた価値

提供先（誰に）
顧客（現場担当者）

何を
【現場環境】
・省エネな設備（ランニングコスト低）
・顧客が扱いやすい設備の提供
・設備管理者の安心

提供先から得てきたもの

・信頼（リピート）
・顧客の潜在ニーズ
・他顧客紹介（評判向上）

事業課題（弱み）

・IT技術者不足
・PR力不足

主要な資源

内部資源
これまで+
・オンライン化を実行できる人材
・潜在需要を発掘できる人材

知財
熱技術（特許、ノウハウ）
スマートファーンズ（商標、ノウハウ資産）の「アップグレード」

外部調達資源（誰から）
外部（炉以外の専門知識）リソースの活用
・IoT、AI技術者
・3D、シミュレーション技術
・工業デザイナー
・SDGs関連ノウハウ など

収益の仕組み

資源をどのように用いて価値を生み出すか

・取得データから作業レポートの自動作成
・遠隔地からの安定作業支援（トラブル対応）
・IoT技術を応用した定期点検

提供先へのアクセス法

・「未来の工業炉ビジョン」を発信する
・設備導入効果の見える化

知財の果たす役割
・パートナーとの連携を後押しする自社価値
・他社との差異化

提供する価値

提供先（どんな相手に）
顧客（全社）
地域・社会・地球

何を
【使用者】省エネ、省資源、作業効率向上
【保全者】保守管理の効率向上、安全・安心な設備、
【経営者】
・地域環境、地球環境
・顧客社員の満足度向上
・顧客CSRの見える化（SDGsへの対応）

（現場環境のみならず、地球環境の改善に貢献する）

提供先から得るもの

・ビッグデータ
・企業価値（評判）の向上
・社員自負（顧客CSRへの貢献）

これまでの外部環境

+要素 省エネ補助金 -要素 顧客の価格優先思考

市場状況 工場の海外移転が盛んな時期もあったが、国内回帰している。一部、価格競争はまたまた激しい。

「これから」の姿への移行のための戦略

これからの外部環境

+要素 省エネ、省CO2、省資源のニーズ高まり。顧客労働力不足。
-要素 国内製造業の市場縮小、自社人材不足。
市場予測 IoT化、3K作業の改善、無人化推進。
（工業炉の国内需要がある前提で）

移行のための課題

・新規参入の壁（変化への期待＜既存設備の安心感）
・未来の「工業炉」ビジョンが不明瞭

必要な資源

1. オンライン化を実行できる人材（内部）
2. 潜在需要を発掘できる人材
3. 炉に転用できる炉以外の専門知識（外部）

知財
熱技術（特許、ノウハウ）
スマートファーンズ（商標、ノウハウ資産）の「アップグレード」

解決策

未来の「工業炉」ビジョンを創造する

上記を実現するために、以下3項目を実施する。

1. 社員の意識改革（オンライン化）、研修プログラムの実施、異業種との積極的交流。
2. よそ者、若者、馬鹿者の新鮮な意見の吸い上げ。
3. 外部（炉以外の専門知識）リソースの活用。

これまで

これから

